II.「市場」形式による協力・協業（続き）

B.　市場原理と計画原理――「社会主義計画経済」の実験と失敗

1.　社会主義（共産主義）革命

a.　初期資本主義

産業革命（１８世紀末～）と工業の発展

貧富の差の拡大、労働者の搾取（少年労働）

　石炭採掘――当時の新しいエネルギー源

b.　社会主義の思想

K. Marx、F. Engels：資本論（１９世紀）

共産党宣言（イギリス）

c.　（旧）ソ連の成立

第１次世界大戦直後（1914～1917）：帝制ロシアに対する革命

共産党政権（旧ソ連）の成立、「労働者による独裁」

d.　社会主義計画経済

生産財・資本財の国有化、国営企業（国営銀行）

　　農業：コルホーズ（共同体）

国民は僅かな消費財のみを所有

分配の平等

　　「生産物は、能力によらず、必要に応じて分け合う」

利潤・利子所得の禁止（資本家を排除）

国が資本家になる

2.　資本主義と社会主義

経済システム：

ある特定の目的のために複数の人間が相互に連携しながら仕事を進めるためのシステム

どのような経済システムでも、そのパフォーマンス（働き具合）は、そこで使用される情報とその手段によって大きく左右される。

a.　資本主義（市場システム）

経済活動は原則自由

生産・取引の自由（安全保持上の規制はある）

職業選択の自由、利潤入手・蓄積・利用の自由

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

分権型決定

b.　社会主義（国家計画システム）

中央政府の計画によって仕事がすすむ

（職業選択、生産決定、投資資金の配分は国が管理、取引価格は政府が決定）

20 世紀の経済実験――２システムの競争 結果は資本主義の一方的勝利、ソ連は 1989 年に崩壊し数カ国に分裂 旧ソ連の衛星諸国も資本主義化 現代社会――混合社会 東ドイツは西ドイツに吸収され、現在は一体化

c.　論争

「社会主義論争」1920-40 年代

F. Hayek, A. Lerner など西側の経済学者は計画経済の非効率性を指摘し、社会主義経済の停滞を予言した。

同「予言」は５０年後に実現

d.　第２次大戦後の経過と「東西対立」

(i)　旧全体主義国（独、伊、日）は民主主義化

民主主義（米、英、ソ連）

(ii)　米・ソ連を主とする両陣営の対立

資本主義グループ

西欧諸国、日本、韓国、カナダ、オーストラリアなど

社会主義グループ

中国、北朝鮮、

東欧（ポーランド、ハンガリー、チェコ、ルーマニア、ブルガリア）

東西間の経済競争

（現在の北朝鮮は上記「対立」の最後の姿）

(iii) 経過

第１段階

農業国の工業化（農→工の人口移動）ソ連、日本などが成長

第２段階

サービス化

情報化

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

この段階で社会主義国の遅れが大きくなった。

e.　（旧）ソ連の社会主義経済

経済システムと情報

(1)　集権と分権

集権：中央のセンターで決定

分権：担当セクターで決定

（現在の日本は地方分権など、分権を目指している。現在は中央集権だと考えられている。一方、ソニーのように、社長が強力なリーダーシップを発揮することで伸びた企業もある。）

(2)　情報集中と分散

「旧ソ連社会主義」の実験

歴史的経過

ロシア革命（1917）72 年を経てベルリン崩壊（1986）にいたる

社会主義経済中央政府への情報集中と計画作成

ソ連当局の考え方：資本主義に対する批判から始まった

- 自由放任にすると資本家／労働者の区別と貧富格差が生じる
- したがって、自由を否定し政府がほとんどすべての経済活動を計画し指令する（→各個人の経済的自由は大幅な制限）
  経済活動は政府が決める
- その代わり、平等が実現される
  （誰でもある程度の生活ができる、安心。）

f.　社会主義経済のゆきづまり

社会主義経済はどのように崩れたか

① 平等→怠惰を許す

“人間の本性”

理想：能力に応じて働き、必要に応じて受け取る→福祉の考え方

現在の日本の福祉の考え方は、これの影響を受けている

	成果	報酬
高能力／高労働	10	5
／低労働	5	5
低能力／高労働	5	5
／低労働	1	5

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

働きにかかわらず平等な報酬だと、働かなくなる
生産が停滞、経済成長が鈍化
生活水準も低いままにとどまる
１人１人：なまけるほど得になる
全員：全員の生活が伸びない

② 中央集権

情報の問題

・ 経済計画が十分に作れない
生産量で規制
不十分な情報で計画作成
「計画の誤り」が発生

結果：
各種の財の生産が過剰／過小供給
例：ブーツ生産の失敗
日本人――スリッパ、ぞうりを履くのがうまい（器用）
ロシア人――寒いのでブーツが必要
足にぴったりしていないと、歩けない
ソ連　大型ブーツ
小型ブーツ
子供用ブーツ
いつもどれかが足りず、どれかが余っている
ブーツ生産：さまざまなブーツの中で、子供用のブーツのみが市場に溢れた。これは、政府が各ブーツの種類を無視し、一定数以上の生産に対してボーナスを与えることを決めたため、各工場が単価の低い子供用ブーツのみを作ったため。子供用は超過供給となり、大人用は不足した。
（トラクター生産では、部品が揃わないために不良品が発生すると、農業生産にも悪影響が生じた）

低経済効率が悪循環

市場メカニズム：必要に応じて生産・供給がすすむ
市場経済では消費需要の情報を受けて生産し、価格が決定される。
計画経済（社会主義経済）では、政府が生産者に生産量を命令するためには大量の「需要情報」「生産情報」を集める必要があった。

商品の種類と数　→経済成長にともなって増大する

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

市場経済（分権的決定）：
「自分のことは自分が一番よく分かっている」

生産・供給	→	市場	←	消費・需要
		価格		情報（何が欲しいか）
		超過需要↑		
		超過供給↓		

社会主義経済：政府（計画）

命令	計画作成		
↓	↑	↑	大量の消費者情報（需要情報）
生産	大量の企業情報（不可能）		

（旧）ソ連：第２次大戦後２０年間は経済成長が実現
農業人口の工業化
生産性の向上
1970 代以降：経済成長・経済システムの複雑化についてゆけない

1917　ソ連成立
1939-45　戦争（第二次世界大戦）　中休み→戦争経済
1945-89　経済競争：経済計画・実施のための公務員を増員
1960 頃からソ連は経済改革
市場経済を少しずつ採用（妥協）
消費財：自由市場
投資財・資本財：国営
金融・通信・コンピューター：国営
情報流通は厳しく制限された（政治的理由）
1970-80 年代
東ヨーロッパ：西側から情報（テレビ）が入る

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/

東西格差

88-89 年：なだれ現象で社会主義政府が崩壊

戦後の経済競争（40 数年）で、両陣営（社会主義と資本主義）で大差がついた

3. 市場経済の情報的効率（まとめ）

資本主義と社会主義の比較

・社会主義―情報の無駄づかい

集権社会

情報が十分に伝わらない

・資本主義―市場メカニズム→情報の節約／効率的な使用

（価格メカニズム）（アダム・スミスの「見えざる神の手」）

（価格の働き）（＝需要供給の法則）

分権社会

oniki@alum.mit.edu
www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/